

19.1%、5:0%とともに要介護1から半数以下になっており、要介護度との関連が明らかであった。歩行能力向上にむけての関与がなされているかの観点からみることも必要であろう。

このように非要介護認定者だけでなく、要介護認定者でも通院者に屋外歩行低下者が多いとい

う事実は介護予防への医療機関の関与の重要性を一層強く示すものといえよう。

2) 自宅内歩行

自宅内歩行の状況を非要介護認定者の身体障害者手帳非所持者については表2-1、身障手帳所持者については表2-2、要介護認定者については表2-3に示す。

表1-3(1) 屋外歩行の状況 -要介護認定者-

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
遠くへも一人で	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.5%	6 7.6%	8 8.2%	2 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16 4.3%
近くなら一人で	1 33.3%	5 55.6%	3 37.5%	2 28.6%	1 12.5%	0 0.0%	12 30.0%	47 59.5%	36 36.7%	34 40.5%	11 20.0%	1 2.8%	0 0.0%	129 34.8%
誰かと一緒なら	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 7.5%	6 7.6%	9 9.2%	10 11.9%	4 7.3%	4 11.1%	2 10.5%	35 9.4%
ほとんど外は歩いていない	1 33.3%	0 0.0%	4 50.0%	1 14.3%	2 25.0%	0 0.0%	8 20.0%	11 13.9%	25 25.5%	20 23.8%	15 27.3%	8 22.2%	2 10.5%	81 21.8%
全く外は歩いていない	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	3 60.0%	6 15.0%	3 3.8%	9 9.2%	3 3.6%	7 12.7%	6 16.7%	2 10.5%	30 8.1%
外は歩いていない	0 0.0%	1 11.1%	1 12.5%	3 42.9%	3 37.5%	2 40.0%	10 25.0%	2 2.5%	9 9.2%	14 16.7%	18 32.7%	16 44.4%	13 68.4%	72 19.4%
非回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 5.1%	2 2.0%	1 1.2%	0 0.0%	1 2.8%	0 0.0%	8 2.2%
計	3 100%	9 100%	8 100%	7 100%	8 100%	5 100%	40 100%	79 100%	98 100%	84 100%	55 100%	36 100%	19 100%	371 100%

表1-3(2) 屋外歩行の状況(続) -要介護認定者-

	通院あり(地域中核病院)								
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	不明	計
遠くへも一人で	2名 12.5%	1名 1.8%	0名 0.0%	0名 0.0%	1名 4.8%	0名 0.0%	3名 37.5%	15名 30.0%	22名 10.2%
近くなら一人で	9 56.3%	28 49.1%	8 25.0%	2 7.7%	3 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	25 50.0%	75 34.7%
誰かと一緒なら	1 6.3%	10 17.5%	3 9.4%	2 7.7%	1 4.8%	0 0.0%	1 12.5%	1 2.0%	19 8.8%
ほとんど外は歩いていない	3 18.8%	15 26.3%	16 50.0%	11 42.3%	4 19.1%	2 33.3%	3 37.5%	8 16.0%	62 28.7%
外は歩けない	1 6.3%	3 5.3%	4 12.5%	11 42.3%	12 57.1%	4 66.7%	1 12.5%	1 2.0%	37 17.1%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
計	16 100%	57 100%	32 100%	26 100%	21 100%	6 100%	8 100%	50 100%	216 100%

(1) 非要介護認定者

非要介護認定者のうち身障手帳非所持者では表2-1、2-2に示すように、「普遍的自立」である「何もつかまらずに」は通院なし群では94.9%に対し、通院中患者のうち地域中核病院以外では92.2%、また地域中核病院では90.3%、と通院中の者でやや少なかった。

しかし「限定的自立」である「壁や家具を

伝わって」は1.3%に対し、4.5%、7.5%と通院中の者で多かった。

そのため、「普遍的自立」と「限定的自立」の両者をあわせた「自立者計」では96.2%、96.7%、97.8%と差はほとんどなかった。

これに対し、「誰かと一緒なら」以降の「非自立者計」は0.9%に対し、1.7%、1.1%と通院ありの者で多かった。

表2-1(1) 自宅内歩行の状況 - 非要介護認定者：身障手帳非所持者 -

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	合計	男性	女性	計		男性	女性	合計	男性	女性	計	
何もつかまらずに	202 96.2%	226 97.4%	428 96.8%	125 94.0%	170 90.9%	295 92.2%	723 94.9%	200 98.5%	296 96.4%	496 97.3%	241 90.3%	356 87.3%	597 88.4%	1093 92.2%
壁や家具を伝わって	0 0.0%	2 0.9%	2 0.5%	3 2.3%	5 2.7%	8 2.5%	10 1.3%	2 1.0%	3 1.0%	5 1.0%	14 5.2%	34 8.3%	48 7.1%	53 4.5%
誰かと一緒なら	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	1 0.3%	1 0.1%	0 0.0%	2 0.7%	2 0.4%	3 1.1%	7 1.7%	10 1.5%	12 1.0%
ずり這い等で動いている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	1 0.5%	2 0.6%	2 0.3%	0 0.0%	1 0.3%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.5%	2 0.3%	3 0.3%
自力では動き回れない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	3 1.6%	4 1.3%	4 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.8%	3 0.7%	5 0.7%	5 0.4%
回答なし	8 3.8%	4 1.7%	12 2.7%	3 2.3%	7 3.7%	10 3.1%	22 2.9%	1 0.5%	5 1.6%	6 1.2%	7 2.6%	6 1.5%	13 1.9%	19 1.6%
計	210 100%	232 100%	442 100%	133 100%	187 100%	320 100%	762 100%	203 100%	307 100%	510 100%	267 100%	408 100%	675 100%	1185 100%

表2-1(2) 自宅内歩行の状況(続) - 非要介護認定者：身障手帳非所持者 -

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
何もつかまらずに	132 97.1%	179 95.2%	311 96.0%	159 94.1%	213 81.0%	372 86.1%	683 90.3%
壁や家具を伝わって	2 1.5%	5 2.7%	7 2.2%	9 5.3%	41 15.6%	50 11.6%	57 7.5%
誰かと一緒なら	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
這うなどで動いている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
自力では動き回れない	0 0.0%	2 1.1%	2 0.6%	1 0.6%	5 1.9%	6 1.4%	8 1.1%
回答なし	2 1.5%	2 1.1%	4 1.2%	0 0.0%	4 1.5%	4 0.9%	8 1.1%
計	136 100%	188 100%	324 100%	169 100%	263 100%	432 100%	756 100%

男女差でみると、ほとんど差はみられなかった。

年齢層で比較すると「自立者計」は通院なし群では前期 97.3%、後期 94.7%、通院（地域中核病院以外）98.3%、95.5%、通院（地域中核病院）98.2%、97.7%、と後期高齢者で少なかったが、差は大きくなかった。

「非自立者計」は通院なし群 0%、2.2%、

通院（地域中核病院以外）0.6%、2.5%、通院（地域中核病院）0.6%、1.4%であった。

次に非要介護認定者で身障手帳所持者では表 2-2 に示すように通院なし群では普遍的自立 97.4%、自立計 97.4%と手帳非所持者に比べ自立度は高かった。一方、通院患者のうち地域中核病院以外では 80.4%、91.4%、地域中核病院では 67.9%、92.9%と手帳非所持

表 2-2 (1) 自宅内歩行の状況 - 非要介護認定者：身障手帳所持者 -

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
何もつかまらずに	10 90.9%	7 100%	17 94.4%	13 100%	8 100%	21 100%	38 97.4%	27 93.1%	31 91.2%	58 92.1%	31 73.8%	50 73.5%	81 73.6%	139 80.4%
壁や家具を伝わって	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.9%	3 8.8%	5 7.9%	4 9.5%	10 14.7%	14 12.7%	19 11.0%
誰かと一緒なら	1 9.1%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 9.5%	1 1.5%	5 4.6%	5 2.9%
ずり這い等で動いている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
自力では動き回れない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.8%	6 8.8%	8 7.3%	8 4.6%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	1 1.5%	2 1.8%	2 1.2%
計	11 100%	7 100%	18 100%	13 100%	8 100%	21 100%	39 100%	29 100%	34 100%	63 100%	42 100%	68 100%	110 100%	173 100%

表 2-2 (2) 自宅内歩行の状況 (続) - 非要介護認定者：身障手帳所持者 -

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
何もつかまらずに	14 82.4%	11 73.3%	25 78.1%	16 69.6%	16 55.2%	32 61.5%	57 67.9%
壁や家具を伝わって	2 11.8%	2 13.3%	4 12.5%	7 30.4%	10 34.5%	17 32.7%	21 25.0%
誰かと一緒なら	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.4%	1 1.9%	1 1.2%
這うなどで動いている	0 0.0%	1 6.7%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%
自力では動き回れない	1 5.9%	1 6.7%	2 6.3%	0 0.0%	2 6.9%	2 3.8%	4 4.8%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	17 100%	15 100%	32 100%	23 100%	29 100%	52 100%	84 100%

者に比べ自立度は低かった。

通院あり群となし群の比較では、通院あり群では「普遍的自立」と「自立者計」とともに通院なし群よりも低かった。

(2) 要介護認定者

要介護認定者では表2-3に示すように、「普遍的自立」は通院なし群では37.5%に対し、通院中患者のうち地域中核病院以外では

36.1%、また地域中核病院では42.6%と地域中核病院への通院の者で高かった。

次に、「限定的自立」は22.5%に対し、37.2%、35.2%と通院なしの者が少なかった。

「自立者計」は60.0%、73.3%、77.8%と、通院なしでむしろ少なかった。

これに対し、「非自立者計」は35.0%に対し、25.1%、21.8%と通院中の者で少なかった。

表2-3(1) 自宅内歩行の状況 - 要介護認定者 -

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
何もつかまらずに	1 33.3%	7 77.8%	5 62.5%	1 14.3%	1 12.5%	0 0.0%	15 37.5%	45 57.0%	42 42.9%	29 34.5%	11 20.0%	6 16.7%	1 5.3%	134 36.1%
壁や家具を伝わって	2 66.7%	2 22.2%	2 25.0%	2 28.6%	1 12.5%	0 0.0%	9 22.5%	30 38.0%	46 46.9%	36 42.9%	19 34.6%	6 16.7%	1 5.3%	138 37.2%
誰かと一緒なら	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	2 2.0%	5 6.0%	10 18.2%	3 8.3%	0 0.0%	21 5.7%
ずり這い等で動いている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	2 25.0%	0 0.0%	3 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.8%	4 7.3%	2 5.6%	1 5.3%	11 3.0%
車いすを自分でこいでいる	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.5%	0 0.0%	3 3.1%	1 1.2%	1 1.8%	2 5.6%	0 0.0%	7 1.9%
車いすを押してもらっている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.4%	3 5.5%	10 27.8%	4 21.1%	19 5.1%
自力では動き回れない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 50.0%	5 100%	9 22.5%	0 0.0%	2 2.0%	7 8.3%	7 12.7%	7 19.4%	12 63.2%	35 9.4%
非回答	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.0%	3 3.8%	3 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 1.6%
計	3 100%	9 100%	8 100%	7 100%	8 100%	5 100%	40 100%	79 100%	98 100%	84 100%	55 100%	36 100%	19 100%	371 100%

表2-3(2) 自宅内歩行の状況(続) - 要介護認定者 -

	通院あり(地域中核病院)								
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	不明	計
何もつかまらず	9名 56.3%	24名 42.1%	8名 25.0%	2名 7.7%	4名 19.1%	0名 0.0%	4名 50.0%	41名 82.0%	92名 42.6%
壁や家具を伝わって歩いている	6 37.5%	28 49.1%	16 50.0%	11 42.3%	5 23.8%	1 16.7%	3 37.5%	6 12.0%	76 35.2%
誰かと一緒なら	1 6.3%	2 3.5%	0 0.0%	4 15.4%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	9 4.2%
這うなどで動いている	0 0.0%	1 1.8%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.9%
自力では動き回れない	0 0.0%	2 3.5%	4 12.5%	9 34.6%	11 52.4%	5 83.3%	1 12.5%	2 4.0%	34 15.7%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
計	16 100%	57 100%	32 100%	26 100%	21 100%	6 100%	8 100%	50 100%	216 100%

要介護度別でみると、「自立者計」は通院なしの要支援：100%、1：100%、2：87.5%、3：42.9%、4：25.0%、5：0%で、通院（地域中核病院以外）は要支援：95.0%、1：89.8%、2：77.4%、3：54.5%、4：33.4%、5：10.6%、通院（地域中核病院）は要支援：93.8%、1：91.2%、2：75.0%、3：50.0%、4：42.9%、5：16.7%で概して通院なしでやや高い傾向があった。

2. 日常生活行為（身の回り行為）

身の回りの行為の状況を非要介護認定者の身体障害者手帳非所持者については表3-1、身障手帳所持者については表3-2、要介護認定者については表3-3に示す。

（1）非要介護認定者

非要介護認定者のうち身障手帳非所持者では表3-1に示すように、「普遍的自立」である「外出時や旅行の時にも不自由ない」

表3-1（1）身の回り行為の状況 —非要介護認定者：身障手帳非所持者—

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
普遍的自立	202 96.2%	213 91.8%	415 93.9%	102 76.7%	129 69.0%	231 72.2%	646 84.8%	176 86.7%	261 85.0%	437 85.7%	164 61.4%	221 54.2%	385 57.0%	822 69.4%
限定的自立	3 1.4%	13 5.6%	16 3.6%	17 12.8%	39 20.9%	56 17.5%	72 9.5%	16 7.9%	22 7.2%	38 7.5%	55 20.6%	113 27.7%	168 24.9%	206 17.4%
不自由がある がなんとか	2 1.0%	3 1.3%	5 1.1%	9 6.8%	8 4.3%	17 5.3%	22 2.9%	10 4.9%	17 5.5%	27 5.3%	32 12.0%	49 12.0%	81 12.0%	108 9.1%
時々人の手を 借りている	1 0.5%	0 0.0%	1 0.2%	2 1.5%	4 2.1%	6 1.9%	7 0.9%	0 0.0%	3 1.0%	3 0.6%	7 2.6%	10 2.5%	17 2.5%	20 1.7%
ほとんど助けて もらっている	0 0.0%	2 0.9%	2 0.5%	1 0.8%	5 2.7%	6 1.9%	8 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.5%	9 2.2%	13 1.9%	13 1.1%
回答なし	2 1.0%	1 0.4%	3 0.7%	2 1.5%	2 1.1%	4 1.3%	7 0.9%	1 0.5%	4 1.3%	5 1.0%	5 1.9%	6 1.5%	11 1.6%	16 1.4%
計	210 100%	232 100%	442 100%	133 100%	187 100%	320 100%	762 100%	203 100%	307 100%	510 100%	267 100%	408 100%	675 100%	1185 100%

表3-1（2）身の回り行為の状況（続） —非要介護認定者：身障手帳非所持者—

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
普遍的自立	130 95.6%	152 80.9%	282 87.0%	138 81.7%	185 70.3%	323 74.8%	605 80.0%
限定的自立	3 2.2%	26 13.8%	29 9.0%	25 14.8%	52 19.8%	77 17.8%	106 14.0%
不自由がある がなんとか	1 0.7%	6 3.2%	7 2.2%	2 1.2%	11 4.2%	13 3.0%	20 2.6%
時々人の手を 借りている	0 0.0%	2 1.1%	2 0.6%	4 2.4%	8 3.0%	12 2.8%	14 1.9%
ほとんど助け てもらっている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.1%	3 0.7%	3 0.4%
回答なし	2 1.5%	2 1.1%	4 1.2%	0 0.0%	4 1.5%	4 0.9%	8 1.1%
計	136 100%	188 100%	324 100%	169 100%	263 100%	432 100%	756 100%

は通院なし群では 84.8%に対し、通院中患者のうち地域中核病院以外では 69.4%、また地域中核病院では 80.0%と、通院中（特に地域中核病院以外）の者で少なかった。

次に、「限定的自立」である「自宅内では不自由ない」は 9.5%に対し、17.4%、14.0%と通院中の者で多かった。この状態は「普遍的自立」にも向上可能な人が多く含まれている可能性があると考えられる。

「普遍的自立」と「限定的自立」の両者を

あわせた「自立者計」は 94.3%、86.8%、94.0%と差は少なくなったが、通院中（地域中核病院以外）の者で少なかった。

これに対し、「自宅内でも不自由あるがなんとかしている」以降の「非自立者計」は 4.9%に対し、11.9%、4.9%と通院なしの者で比較的少なかった。

男女差でみると、「普遍的自立」は通院の有無を問わず男性で多かった。

表 3-2 (1) 身の回り行為の状況 — 非要介護認定者：身障手帳所持者 —

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
普遍的自立	10 90.9%	7 100%	17 94.4%	8 61.5%	3 37.5%	11 52.4%	28 71.8%	12 41.4%	17 50.0%	29 46.0%	12 28.6%	21 30.9%	33 30.0%	62 35.8%
限定的自立	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 30.8%	3 37.5%	7 33.3%	7 18.0%	8 27.6%	6 17.7%	14 22.2%	12 28.6%	18 26.5%	30 27.3%	44 25.4%
不自由があるが なんとか	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	2 9.5%	2 5.1%	6 20.7%	7 20.6%	13 20.6%	13 31.0%	17 25.0%	30 27.3%	43 24.9%
時々人の手を借 りている	1 9.1%	0 0.0%	1 5.6%	1 7.7%	0 0.0%	1 4.8%	2 5.1%	2 6.9%	3 8.8%	5 7.9%	2 4.8%	4 5.9%	6 5.5%	11 6.4%
ほとんど助けて もらっている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.5%	1 2.9%	2 3.2%	2 4.8%	6 8.8%	8 7.3%	10 5.8%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	2 2.9%	3 2.7%	3 1.7%
計	11 100%	7 100%	18 100%	13 100%	8 100%	21 100%	39 100%	29 100%	34 100%	63 100%	42 100%	68 100%	110 100%	173 100%

表 3-2 (2) 身の回り行為の状況 (続) — 非要介護認定者：身障手帳所持者 —

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
普遍的自立	11 64.7%	9 60.0%	20 62.5%	13 56.5%	19 65.5%	32 61.5%	52 61.9%
限定的自立	1 5.9%	5 33.3%	6 18.8%	5 21.7%	6 20.7%	11 21.2%	17 20.2%
不自由がある がなんとか	3 17.6%	1 6.7%	4 12.5%	5 21.7%	2 6.9%	7 13.5%	11 13.1%
時々人の手を借 りている	2 11.8%	0 0.0%	2 6.3%	0 0.0%	1 3.4%	1 1.9%	3 3.6%
ほとんど助けて もらっている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.4%	1 1.9%	1 1.2%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	17 100%	15 100%	32 100%	23 100%	29 100%	52 100%	84 100%

年齢層で比較すると、「自立者計」は通院なし群では前期 97.5%、後期 89.7%、通院（地域中核病院以外）93.2%、81.9%、通院（地域中核病院）96.0%、92.6%、と前期高齢者、後期高齢者とも通院（地域中核病院以外）で少なかった。

「非自立者計」は通院なし群 1.8%、9.1%、通院（地域中核病院以外）5.9%、16.4%、通院（地域中核病院）2.8%、6.5%であった。

次に非要介護認定者のうち身障手帳所持者

では表 3-2 に示すように通院なし群では普遍的自立 71.8%、自立計 89.8%と手帳非所持者に比べ自立者は多かった。一方、通院患者のうち地域中核病院以外では 35.8%、61.2%、地域中核病院では 61.9%、82.1%と手帳非所持者に比べ自立者は少なかった。

（２）要介護認定者

要介護認定者では表 3-3 に示すように、「普遍的自立」は通院なし群では 10.0%に対し、通院中患者のうち地域中核病院以外では

表 3-3（１） 身の回り行為の状況 —要介護認定者—

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
普遍的自立	0 0.0%	4 44.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 10.0%	11 13.9%	9 9.2%	2 2.4%	3 5.5%	0 0.0%	0 0.0%	25 6.7%
限定的自立	0 0.0%	3 33.3%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	6 15.0%	26 32.9%	22 22.5%	15 17.9%	0 0.0%	1 2.8%	0 0.0%	64 17.3%
不自由がある がなんとか	1 33.3%	0 0.0%	4 50.0%	1 14.3%	2 25.0%	0 0.0%	8 20.0%	33 41.8%	33 33.7%	25 29.8%	6 10.9%	4 11.1%	0 0.0%	101 27.2%
時々人の手を 借りている	1 33.3%	2 22.2%	2 25.0%	2 28.6%	1 12.5%	0 0.0%	8 20.0%	7 8.9%	25 25.5%	30 35.7%	19 34.6%	6 16.7%	1 5.3%	88 23.7%
ほとんど助けて もらっている	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 57.1%	5 62.5%	4 80.0%	14 35.0%	1 1.3%	8 8.2%	11 13.1%	27 49.1%	25 69.4%	18 94.7%	90 24.3%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.0%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.8%
計	3 100%	9 100%	8 100%	7 100%	8 100%	5 100%	40 100%	79 100%	98 100%	84 100%	55 100%	36 100%	19 100%	371 100%

表 3-3（２） 身の回り行為の状況（続） —要介護認定者—

	通院あり(地域中核病院)								
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	不明	計
普遍的自立	9名 56.3%	10名 17.5%	3名 9.4%	0名 0.0%	2名 9.5%	0名 0.0%	4名 50.0%	31名 62.0%	59名 27.3%
限定的自立	3 18.8%	16 28.1%	3 9.4%	4 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 20.0%	36 16.7%
不自由がある がなんとか	2 12.5%	18 31.6%	8 25.0%	3 11.5%	1 4.8%	0 0.0%	1 12.5%	6 12.0%	39 18.1%
時々人の手を 借りている	1 6.3%	9 15.8%	14 43.8%	5 19.2%	4 19.1%	1 16.7%	1 12.5%	1 2.0%	36 16.7%
ほとんど助けて もらっている	1 6.3%	4 7.0%	3 9.4%	14 53.9%	14 66.7%	5 83.3%	2 25.0%	2 4.0%	45 20.8%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
計	16 100%	57 100%	32 100%	26 100%	21 100%	6 100%	8 100%	50 100%	216 100%

6.7%、また地域中核病院では 27.3%と地域中核病院で多かった。

次に、「限定的自立」は 15.0%に対し、17.3%、16.7%とほぼ同じであった。

「自立者計」は 25.0%、24.0%、44.0%と、地域中核病院通院者で多かった。

これに対し、「非自立者計」は 75.0%に対し、75.2%、55.6%と、地域中核病院通院者で少なかった。

要介護度別でみると、「自立者計」は通院なし(人数少ない)では要支援:0%、1:77.7%、2:25.0%、3:0%、4:0%、5:20.0%であった。通院(地域中核病院以外)は要支援:46.8%、1:31.7%、2:20.3%、3:5.5%、4:2.8%、5:0%、通院(地域中核病院)は要支援:75.1%、1:45.6%、2:18.8%、3:15.4%、4:9.5%、5:0%と全てで通院(地域中核病院以外)が多かった。

表 4-1 (1) 家事の状況 — 非要介護認定者：身障手帳非所持者 —

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
全部している	37 17.6%	191 82.3%	228 51.6%	22 16.5%	101 54.0%	123 38.4%	351 46.1%	33 16.3%	253 82.4%	286 56.1%	37 13.9%	232 56.9%	269 39.9%	555 46.8%
一部している	45 21.4%	25 10.8%	70 15.8%	20 15.0%	46 24.6%	66 20.6%	136 17.9%	32 15.8%	34 11.1%	66 12.9%	46 17.2%	101 24.8%	147 21.8%	213 18.0%
時々している	39 18.6%	4 1.7%	43 9.7%	32 24.1%	18 9.6%	50 15.6%	93 12.2%	45 22.2%	8 2.6%	53 10.4%	52 19.5%	41 10.1%	93 13.8%	146 12.3%
ほとんどしていない	41 19.5%	0 0.0%	41 9.3%	17 12.8%	9 4.8%	26 8.1%	67 8.8%	39 19.2%	1 0.3%	40 7.8%	51 19.1%	13 3.2%	64 9.5%	104 8.8%
全くしていない	46 21.9%	0 0.0%	46 10.4%	39 29.3%	5 2.7%	44 13.8%	90 11.8%	54 26.6%	3 1.0%	57 11.2%	79 29.6%	11 2.7%	90 13.3%	147 12.4%
回答なし	2 1.0%	12 5.2%	14 3.2%	3 2.3%	8 4.3%	11 3.4%	25 3.3%	0 0.0%	8 2.6%	8 1.6%	2 0.8%	10 2.5%	12 1.8%	20 1.7%
計	210 100%	232 100%	442 100%	133 100%	187 100%	320 100%	762 100%	203 100%	307 100%	510 100%	267 100%	408 100%	675 100%	1185 100%

表 4-1 (2) 家事の状況 (続) — 非要介護認定者：身障手帳非所持者 —

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
全部している	24 17.6%	153 81.4%	177 54.6%	33 19.5%	144 54.8%	177 41.0%	354 46.8%
一部している	19 14.0%	27 14.4%	46 14.2%	21 12.4%	78 29.7%	99 22.9%	145 19.2%
時々している	23 16.9%	5 2.7%	28 8.6%	19 11.2%	17 6.5%	36 8.3%	64 8.5%
ほとんどしていない	26 19.1%	0 0.0%	26 8.0%	33 19.5%	13 4.9%	46 10.6%	72 9.5%
全くしていない	42 30.9%	1 0.5%	43 13.3%	63 37.3%	7 2.7%	70 16.2%	113 14.9%
回答なし	2 1.5%	2 1.1%	4 1.2%	0 0.0%	4 1.5%	4 0.9%	8 1.1%
計	136 100%	188 100%	324 100%	169 100%	263 100%	432 100%	756 100%

3. 家事（炊事、洗濯、掃除、ごみ捨て、庭仕事など）

家事の状況を非要介護認定者についてしらべた。そのうち身体障害者手帳非所持者については表4-1、身障手帳所持者については表4-2に示す。

以下の結果にみるように、男性においても手帳の有無に関わらず、ほぼ1~2割は「家事を全部している」であり、「一部している」「時々している」を加えると身障手帳非所持

の非要介護認定者では男性の5割前後におよぶ。また家事は、生活の活発化の上でも意味が大きく、介護予防との関係からも、男性についても家事の状況を把握することは重要であると考えられる。

非要介護認定者のうち身障手帳非所持者では表4-1、4-2に示すように、「全部している」は通院なし群では46.1%に対し、通院中患者のうち地域中核病院以外では46.8%、

表4-2(1) 家事の状況 -非要介護認定者：身障手帳所持者-

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
全部している	2 18.2%	7 100%	9 50.0%	3 23.1%	5 62.5%	8 38.1%	17 43.6%	1 3.5%	23 67.7%	24 38.1%	3 7.1%	40 58.8%	43 39.1%	67 38.7%
一部している	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	2 25.0%	3 14.3%	3 7.7%	8 27.6%	7 20.6%	15 23.8%	9 21.4%	9 13.2%	18 16.4%	33 19.1%
時々している	2 18.2%	0 0.0%	2 11.1%	2 15.4%	0 0.0%	2 9.5%	4 10.3%	1 3.5%	2 5.9%	3 4.8%	10 23.8%	6 8.8%	16 14.6%	19 11.0%
ほとんどしていない	2 18.2%	0 0.0%	2 11.1%	3 23.1%	1 12.5%	4 19.1%	6 15.4%	7 24.1%	0 0.0%	7 11.1%	1 2.4%	0 0.0%	1 0.9%	8 4.6%
全くしていない	5 45.5%	0 0.0%	5 27.8%	4 30.8%	0 0.0%	4 19.1%	9 23.1%	12 41.4%	0 0.0%	12 19.1%	18 42.9%	10 14.7%	28 25.5%	40 23.1%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.9%	2 3.2%	1 2.4%	3 4.4%	4 3.6%	6 3.5%
計	11 100%	7 100%	18 100%	13 100%	8 100%	21 100%	39 100%	29 100%	34 100%	63 100%	42 100%	68 100%	110 100%	173 100%

表4-2(2) 家事の状況(続) -非要介護認定者：身障手帳所持者-

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
全部している	1 5.9%	13 86.7%	14 43.8%	3 13.0%	19 65.5%	22 42.3%	36 42.9%
一部している	6 35.3%	2 13.3%	8 25.0%	2 8.7%	3 10.3%	5 9.6%	13 15.5%
時々している	2 11.8%	0 0.0%	2 6.3%	3 13.0%	3 10.3%	6 11.5%	8 9.5%
ほとんどしていない	1 5.9%	0 0.0%	1 3.1%	7 30.4%	1 3.4%	8 15.4%	9 10.7%
全くしていない	7 41.2%	0 0.0%	7 21.9%	8 34.8%	3 10.3%	11 21.2%	18 21.4%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	17 100%	15 100%	32 100%	23 100%	29 100%	52 100%	84 100%

また地域中核病院では46.8%とほぼ同じであり、通院の有無・通院先による差はなかった。

男女の差が大きいので女性だけでみると、通院なしでの「全部している」は前期82.3%、後期 54.0%、通院（地域中核病院以外）で82.4%、56.9%、通院（地域中核病院）で81.4%、54.8%と、地域中核病院通院者でやや低い傾向はあるが、大きな差ではなかった。

次に身障手帳所持者では「全部している」

が全体で通院なし 43.6%、通院あり 38.7%、42.9%と通院者でやや低かった。女性だけを比較しても同様に通院者で低かった。

Ⅱ. 「活動」の状況（２）生活の活発さ

－「活動」の「量」

1. 生活の活発さの状況

「活動」の「量」的側面を示す生活の活発さの状況を、非要介護認定者の身体障害者手帳非所持者については表5-1、身障手帳所

表5-1（1） 生活の活発さの状況 ー非要介護認定者：身障手帳非所持者ー

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
外でもよく動いている	181	168	349	92	110	202	551	153	192	345	139	208	347	692
	86.2%	72.4%	79.0%	69.2%	58.8%	63.1%	72.3%	75.4%	62.5%	67.7%	52.1%	51.0%	51.4%	58.4%
家の中ではよく動いている	15	40	55	9	24	33	88	17	62	79	28	62	90	169
	7.1%	17.2%	12.4%	6.8%	12.8%	10.3%	11.6%	8.4%	20.2%	15.5%	10.5%	15.2%	13.3%	14.3%
座っていることが多い	6	10	16	9	15	24	40	15	16	31	41	43	84	115
	2.9%	4.3%	3.6%	6.8%	8.0%	7.5%	5.3%	7.4%	5.2%	6.1%	15.4%	10.5%	12.4%	9.7%
時々横になっている	5	12	17	14	29	43	60	14	27	41	36	74	110	151
	2.4%	5.2%	3.9%	10.5%	15.5%	13.4%	7.9%	6.9%	8.8%	8.0%	13.5%	18.1%	16.3%	12.7%
ほとんど横になっている	0	1	1	3	4	7	8	2	3	5	15	10	25	30
	0.0%	0.4%	0.2%	2.3%	2.1%	2.2%	1.1%	1.0%	1.0%	1.0%	5.6%	2.5%	3.7%	2.5%
回答なし	3	1	4	6	5	11	15	2	7	9	8	11	19	28
	1.4%	0.4%	0.9%	4.5%	2.7%	3.4%	2.0%	1.0%	2.3%	1.8%	3.0%	2.7%	2.8%	2.4%
計	210	232	442	133	187	320	762	203	307	510	267	408	675	1185
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表5-1（2） 生活の活発さの状況（続） ー非要介護認定者：身障手帳非所持者ー

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
外でもよく動いている	105	118	223	102	121	223	446
	77.2%	62.8%	68.8%	60.4%	46.0%	51.6%	59.0%
家の中ではよく動いている	14	44	58	22	50	72	130
	10.3%	23.4%	17.9%	13.0%	19.0%	16.7%	17.2%
座っていることが多い	8	17	25	29	47	76	101
	5.9%	9.0%	7.7%	17.2%	17.9%	17.6%	13.4%
時々横になっている	7	7	14	14	31	45	59
	5.1%	3.7%	4.3%	8.3%	11.8%	10.4%	7.8%
ほとんど横になっている	0	0	0	2	10	12	12
	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	3.8%	2.8%	1.6%
回答なし	2	2	4	0	4	4	8
	1.5%	1.1%	1.2%	0.0%	1.5%	0.9%	1.1%
計	136	188	324	169	263	432	756
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

持者については表5-2、要介護認定者については表5-3に示す。

(1) 非要介護認定者

非要介護認定者のうち身障手帳非所持者では表5-1に示すように、「外でもよく動いている」は通院なし群では72.3%に対し、通院中患者のうち地域中核病院以外では58.4%、また地域中核病院では59.0%、と通院中の者が明らかに少なく、4割以上が屋外ではあまり動いていなかった。

次に、「家の中ではよく動いている」は11.6%に対し、14.3%、17.2%と通院中の者が多くなるが、これと「外でもよく動いている」をあわせると、83.9%対、72.7%、76.2%とやはり通院中の者が少なく、室内で動くことを含めても2割以上の者で活動性が低い状況にあった。この点は医療機関において介護予防の一環として、「いかに動くべきか」という「活動度」の丁寧な指導が望まれるところである。

表5-2 (1) 生活の活発さの状況 - 非要介護認定者：身障手帳所持者 -

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
外でもよく動いている	10 90.9%	5 71.4%	15 83.3%	8 61.5%	6 75.0%	14 66.7%	29 74.4%	11 37.9%	17 50.0%	28 44.4%	13 31.0%	29 42.7%	42 38.2%	70 40.5%
家の中ではよく動いている	0 0.0%	1 14.3%	1 5.6%	3 23.1%	1 12.5%	4 19.1%	5 12.8%	5 17.2%	7 20.6%	12 19.1%	6 14.3%	6 8.8%	12 10.9%	24 13.9%
座っていることが多い	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	1 12.5%	2 9.5%	2 5.1%	5 17.2%	4 11.8%	9 14.3%	7 16.7%	9 13.2%	16 14.6%	25 14.5%
時々横になっている	1 9.1%	1 14.3%	2 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.1%	6 20.7%	3 8.8%	9 14.3%	6 14.3%	12 17.7%	18 16.4%	27 15.6%
ほとんど横になっている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 11.9%	6 8.8%	11 10.0%	11 6.4%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	1 4.8%	1 2.6%	2 6.9%	3 8.8%	5 7.9%	5 11.9%	6 8.8%	11 10.0%	16 9.3%
計	11 100%	7 100%	18 100%	13 100%	8 100%	21 100%	39 100%	29 100%	34 100%	63 100%	42 100%	68 100%	110 100%	173 100%

表5-2 (2) 生活の活発さの状況 (続) - 非要介護認定者：身障手帳所持者 -

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
外でもよく動いている	11 64.7%	7 46.7%	18 56.3%	11 47.8%	12 41.4%	23 44.2%	41 48.8%
家の中ではよく動いている	1 5.9%	4 26.7%	5 15.6%	4 17.4%	8 27.6%	12 23.1%	17 20.2%
座っていることが多い	4 23.5%	0 0.0%	4 12.5%	3 13.0%	4 13.8%	7 13.5%	11 13.1%
時々横になっている	1 5.9%	4 26.7%	5 15.6%	5 21.7%	4 13.8%	9 17.3%	14 16.7%
ほとんど横になっている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.4%	1 1.9%	1 1.2%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	17 100%	15 100%	32 100%	23 100%	29 100%	52 100%	84 100%

男女差をみると、3群ともに男性がよく動いている。

年齢層で比較すると「外でもよく動いている」は通院なし群では前期79.0%、後期63.1%、通院（地域中核病院以外）67.7%、51.4%通院（地域中核病院）68.8%、51.6%と年齢が高いほど生活の活発さが低下し、またどの年齢層でも通院者で低かった。また、「ほとんど横になっている」は通院なし群では前期0.2%、

後期2.2%、通院（地域中核病院以外）1.0%、3.7%、通院（地域中核病院）0%、2.8%と通院（地域中核病院以外）で多かった。

次に非要介護認定者で身障手帳所持者では表5-2に示すように通院なし群では「外でもよく動いている」74.4%（前期83.3%、後期66.7%）など手帳非所持者に比べむしろ活動性の高いことは注目される。

表5-3(1) 生活の活発さの状況 - 要介護認定者 -

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
外でもよく動いている	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.5%	14 17.7%	15 15.3%	3 3.6%	1 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	33 8.9%
家の中ではよく動いている	0 0.0%	2 22.2%	2 25.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 12.5%	10 12.7%	9 9.2%	7 8.3%	5 9.1%	1 2.8%	0 0.0%	32 8.6%
座っていることが多い	0 0.0%	3 33.3%	2 25.0%	2 28.6%	1 12.5%	0 0.0%	8 20.0%	23 29.1%	25 25.5%	18 21.4%	11 20.0%	8 22.2%	2 10.5%	87 23.5%
時々横になっている	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	4 10.0%	26 32.9%	30 30.6%	30 35.7%	15 27.3%	6 16.7%	3 15.8%	110 29.7%
ほとんど横になっている	3 100%	3 33.3%	2 25.0%	4 57.1%	5 62.5%	5 100%	22 55.0%	5 6.3%	19 19.4%	25 29.8%	22 40.0%	19 52.8%	13 68.4%	103 27.8%
非回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	1 1.2%	1 1.8%	2 5.6%	1 5.3%	6 1.6%
計	3 100%	9 100%	8 100%	7 100%	8 100%	5 100%	40 100%	79 100%	98 100%	84 100%	55 100%	36 100%	19 100%	371 100%

表5-3(1) 生活の活発さの状況(続) - 要介護認定者 -

	通院あり(地域中核病院)								
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	不明	計
外でもよく動いている	8名 50.0%	7名 12.3%	0名 0.0%	2名 7.7%	2名 9.5%	0名 0.0%	3名 37.5%	22名 44.0%	44名 20.4%
家の中ではよく動いている	4 25.0%	9 15.8%	5 15.6%	4 15.4%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	13 26.0%	36 16.7%
座っていることが多い	2 12.5%	20 35.1%	15 46.9%	3 11.5%	5 23.8%	1 16.7%	2 25.0%	8 16.0%	56 25.9%
時々横になっている	0 0.0%	14 24.6%	6 18.8%	5 19.2%	3 14.3%	2 33.3%	1 12.5%	4 8.0%	35 16.2%
ほとんど横になっている	2 12.5%	7 12.3%	5 15.6%	12 46.2%	10 47.6%	3 50.0%	2 25.0%	3 6.0%	44 20.4%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
計	16 100%	57 100%	32 100%	26 100%	21 100%	6 100%	8 100%	50 100%	216 100%

しかし、通院患者では地域中核病院及びそれ以外ともに手帳非所持者に比べ「外でもよく動いている」は少なかった。

(2) 要介護認定者

要介護認定者では表5-3に示すように、「外でもよく動いている」は通院なし群では2.5%に対し、通院中患者のうち地域中核病院以外では8.9%、また地域中核病院では20.4%、また「ほとんど横になっている」はなし群は55.0%と半数を超えていた。

要介護度別でも、通院なしの活動性が著しく低い。通院なし群では、通院あり群との屋外歩行・屋内歩行、身の回り行為の差に比べて活動性が特に低いことは注目すべきであろう。

2. 外出頻度

生活活動性の重要な指標であり、「生活の活発さ」となると「活動」の「量」的側面を示す外出頻度の状況を非要介護認定者につ

表6-1(1) 外出頻度の状況 - 非要介護認定者：身障手帳非所持者 -

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
ほぼ毎日	136 64.8%	131 56.5%	267 60.4%	65 48.9%	67 35.8%	132 41.3%	399 52.4%	121 59.6%	129 42.0%	250 49.0%	113 42.3%	125 30.6%	238 35.3%	488 41.2%
週3回以上	38 18.1%	53 22.8%	91 20.6%	25 18.8%	32 17.1%	57 17.8%	148 19.4%	42 20.7%	71 23.1%	113 22.2%	50 18.7%	76 18.6%	126 18.7%	239 20.2%
週1回以上	25 11.9%	32 13.8%	57 12.9%	18 13.5%	43 23.0%	61 19.1%	118 15.5%	28 13.8%	64 20.9%	92 18.0%	54 20.2%	91 22.3%	145 21.5%	237 20.0%
月1回以上	6 2.9%	12 5.2%	18 4.1%	13 9.8%	25 13.4%	38 11.9%	56 7.4%	6 3.0%	31 10.1%	37 7.3%	24 9.0%	75 18.4%	99 14.7%	136 11.5%
ほとんど外出していない	4 1.9%	2 0.9%	6 1.4%	7 5.3%	16 8.6%	23 7.2%	29 3.8%	6 3.0%	5 1.6%	11 2.2%	22 8.2%	28 6.9%	50 7.4%	61 5.2%
回答なし	1 0.5%	2 0.9%	3 0.7%	5 3.8%	4 2.1%	9 2.8%	12 1.6%	0 0.0%	7 2.3%	7 1.4%	4 1.5%	13 3.2%	17 2.5%	24 2.0%
計	210 100%	232 100%	442 100%	133 100%	187 100%	320 100%	762 100%	203 100%	307 100%	510 100%	267 100%	408 100%	675 100%	1185 100%

表6-1(2) 外出頻度の状況(続) - 非要介護認定者：身障手帳非所持者 -

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
ほぼ毎日	112 82.4%	124 66.0%	236 72.8%	123 72.8%	107 40.7%	230 53.2%	466 61.6%
週3回以上	12 8.8%	35 18.6%	47 14.5%	23 13.6%	70 26.6%	93 21.5%	140 18.5%
週1回以上	7 5.1%	20 10.6%	27 8.3%	11 6.5%	48 18.3%	59 13.7%	86 11.4%
月1回以上	2 1.5%	7 3.7%	9 2.8%	7 4.1%	17 6.5%	24 5.6%	33 4.4%
ほとんど外出していない	1 0.7%	0 0.0%	1 0.3%	5 3.0%	17 6.5%	22 5.1%	23 3.0%
回答なし	2 1.5%	2 1.1%	4 1.2%	0 0.0%	4 1.5%	4 0.9%	8 1.1%
計	136 100%	188 100%	324 100%	169 100%	263 100%	432 100%	756 100%

いてしらべた。その結果を身体障害者手帳非所持者については表6-1、身障手帳所持者については表6-2に示す。

身障手帳非所持者では表6-1に示すように、「ほぼ毎日」は通院なし群では52.4%に対し、通院中患者のうち地域中核病院以外では41.2%、また地域中核病院では61.6%と、地域中核病院への通院中の者で最も多かった。

次に、「週3回以上」では19.4%に対し、20.2%、18.5%とほぼ同じであった。

男女差でみると男性で外出の頻度は高かった。

年齢層で比較すると「ほとんど外出していない」は通院なし群では前期1.4%、後期7.2%、通院（地域中核病院以外）2.2%、7.4%通院（地域中核病院）0.3%、5.1%と顕著に後期で多くなっていた。また「週1回未満」（「月1回以上」以下）は前期では1割未満だが、後期では2割程度となっていた。

表6-2(1) 外出頻度の状況 — 非要介護認定者：身障手帳所持者 —

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
ほぼ毎日	7 63.6%	5 71.4%	12 66.7%	4 30.8%	3 37.5%	7 33.3%	19 48.7%	11 37.9%	10 29.4%	21 33.3%	12 28.6%	11 16.2%	23 20.9%	44 25.4%
週3回以上	1 9.1%	1 14.3%	2 11.1%	3 23.1%	1 12.5%	4 19.1%	6 15.4%	10 34.5%	9 26.5%	19 30.2%	6 14.3%	14 20.6%	20 18.2%	39 22.5%
週1回以上	1 9.1%	1 14.3%	2 11.1%	0 0.0%	2 25.0%	2 9.5%	4 10.3%	2 6.9%	10 29.4%	12 19.1%	11 26.2%	17 25.0%	28 25.5%	40 23.1%
月1回以上	2 18.2%	0 0.0%	2 11.1%	2 15.4%	0 0.0%	2 9.5%	4 10.3%	4 13.8%	3 8.8%	7 11.1%	3 7.1%	9 13.2%	12 10.9%	19 11.0%
ほとんど外出していない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 23.1%	2 25.0%	5 23.8%	5 12.8%	2 6.9%	1 2.9%	3 4.8%	8 19.1%	11 16.2%	19 17.3%	22 12.7%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	1 4.8%	1 2.6%	0 0.0%	1 2.9%	1 1.6%	2 4.8%	6 8.8%	8 7.3%	9 5.2%
計	11 100%	7 100%	18 100%	13 100%	8 100%	21 100%	39 100%	29 100%	34 100%	63 100%	42 100%	68 100%	110 100%	173 100%

表6-2(2) 外出頻度の状況(続) — 非要介護認定者：身障手帳所持者 —

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
ほぼ毎日	11 64.7%	6 40.0%	17 53.1%	9 39.1%	13 44.8%	22 42.3%	39 46.4%
週3回以上	4 23.5%	6 40.0%	10 31.3%	8 34.8%	8 27.6%	16 30.8%	26 31.0%
週1回以上	1 5.9%	3 20.0%	4 12.5%	3 13.0%	5 17.2%	8 15.4%	12 14.3%
月1回以上	1 5.9%	0 0.0%	1 3.1%	1 4.3%	3 10.3%	4 7.7%	5 6.0%
ほとんど外出していない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.7%	0 0.0%	2 3.8%	2 2.4%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	17 100%	15 100%	32 100%	23 100%	29 100%	52 100%	84 100%

以上のように通院中の者で外出頻度が高かったが、通院も外出にカウントされるため、これがただちに通院群の生活活動性の高さを示すものとはいえず、むしろ通院以外の外出が少ないのではないかという推察も可能である。

次に身障手帳所持者では表6-2に示すように「ほぼ毎日」は通院なし群前期高齢者では66.7%と、非所持者(60.4%)よりむしろ活発であった。それ以外の通院なし群後期高

齢者、通院あり(地域中核病院以外)、通院あり(地域中核病院)ではすべて活動性は低かった。特に「ほとんど外出していない」は通院なし群後期高齢者と通院(地域中核病院以外)の後期高齢者ではが2割程度いた。

Ⅲ. 「参加」の状況

1. 対人関係

介護予防を支える「自助・共助」にとって重要な対人関係の状況を、非要介護認定者に

表7-1(1) 対人関係の状況 - 非要介護認定者：身障手帳非所持者 -

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
とても活発	57 27.1%	67 28.9%	124 28.1%	22 16.5%	22 11.8%	44 13.8%	168 22.1%	30 14.8%	69 22.5%	99 19.4%	32 12.0%	49 12.0%	81 12.0%	180 15.2%
活発	27 12.9%	25 10.8%	52 11.8%	6 4.5%	13 7.0%	19 5.9%	71 9.3%	20 9.9%	29 9.5%	49 9.6%	14 5.2%	20 4.9%	34 5.0%	83 7.0%
普通	111 52.9%	129 55.6%	240 54.3%	89 66.9%	121 64.7%	210 65.6%	450 59.1%	144 70.9%	191 62.2%	335 65.7%	183 68.5%	274 67.2%	457 67.7%	792 66.8%
一部だけ	9 4.3%	4 1.7%	13 2.9%	6 4.5%	14 7.5%	20 6.3%	33 4.3%	6 3.0%	10 3.3%	16 3.1%	17 6.4%	46 11.3%	63 9.3%	79 6.7%
ほとんどもっていない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 3.8%	7 3.7%	12 3.8%	12 1.6%	1 0.5%	2 0.7%	3 0.6%	15 5.6%	9 2.2%	24 3.6%	27 2.3%
回答なし	6 2.9%	7 3.0%	13 2.9%	5 3.8%	10 5.4%	15 4.7%	28 3.7%	2 1.0%	6 2.0%	8 1.6%	6 2.3%	10 2.5%	16 2.4%	24 2.0%
計	210 100%	232 100%	442 100%	133 100%	187 100%	320 100%	762 100%	203 100%	307 100%	510 100%	267 100%	408 100%	675 100%	1185 100%

表7-1(2) 対人関係の状況(続) - 非要介護認定者：身障手帳非所持者 -

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
とても活発	32 23.5%	39 20.7%	71 21.9%	30 17.8%	49 18.6%	79 18.3%	150 19.8%
活発	18 13.2%	34 18.1%	52 16.0%	24 14.2%	37 14.1%	61 14.1%	113 14.9%
普通	69 50.7%	94 50.0%	163 50.3%	88 52.1%	121 46.0%	209 48.4%	372 49.2%
一部だけ	11 8.1%	11 5.9%	22 6.8%	16 9.5%	25 9.5%	41 9.5%	63 8.3%
ほとんどもっていない	3 2.2%	2 1.1%	5 1.5%	11 6.5%	23 8.7%	34 7.9%	39 5.2%
回答なし	3 2.2%	8 4.3%	11 3.4%	0 0.0%	8 3.0%	8 1.9%	19 2.5%
計	136 100%	188 100%	324 100%	169 100%	263 100%	432 100%	756 100%

ついて調べた。うち身体障害者手帳非所持者については表7-1、身障手帳所持者については表7-2に示す。

非要介護認定者のうち身障手帳非所持者では表7-1に示すように、「とても活発に対人関係をもっている」は通院なし群では前期28.1%、後期13.8%、通院（地域中核病院以外）19.4%、12.0%、通院（地域中核病院）21.9%、18.3%、と概して通院なし群が多く、また通院なしでは「一部だけ」「ほとんどして

いない」が少なく、通院なし群が活発な対人関係をもっているといえよう。

男女差はそれほど大きくなく、一定の傾向はなかった。

次に非要介護認定者で身障手帳所持者では表7-2に示すように「とても活発に対人関係をもっている」は通院なし群の前期では50%と手帳非所持者も含めて最も多かった。その他の所持群では非所持者に比べ少なく、

表7-2(1) 対人関係の状況 -非要介護認定者：身障手帳所持者-

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
とても活発	6 54.6%	3 42.9%	9 50.0%	1 7.7%	0 0.0%	1 4.8%	10 25.6%	3 10.3%	3 8.8%	6 9.5%	2 4.8%	4 5.9%	6 5.5%	12 6.9%
活発	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.3%	1 2.9%	4 6.4%	2 4.8%	3 4.4%	5 4.6%	9 5.2%
普通	5 45.5%	3 42.9%	8 44.4%	8 61.5%	3 37.5%	11 52.4%	19 48.7%	17 58.6%	26 76.5%	43 68.3%	23 54.8%	43 63.2%	66 60.0%	109 63.0%
一部だけ	0 0.0%	1 14.3%	1 5.6%	1 7.7%	3 37.5%	4 19.1%	5 12.8%	4 13.8%	3 8.8%	7 11.1%	10 23.8%	9 13.2%	19 17.3%	26 15.0%
ほとんどもっていない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	2 25.0%	4 19.1%	4 10.3%	1 3.5%	0 0.0%	1 1.6%	4 9.5%	6 8.8%	10 9.1%	11 6.4%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	1 4.8%	1 2.6%	1 3.5%	1 2.9%	2 3.2%	1 2.4%	3 4.4%	4 3.6%	6 3.5%
計	11 100%	7 100%	18 100%	13 100%	8 100%	21 100%	39 100%	29 100%	34 100%	63 100%	42 100%	68 100%	110 100%	173 100%

表7-2(2) 対人関係の状況(続) -非要介護認定者：身障手帳所持者-

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
とても活発	2 11.8%	1 6.7%	3 9.4%	2 8.7%	3 10.3%	5 9.6%	8 9.5%
活発である	5 29.4%	2 13.3%	7 21.9%	1 4.3%	5 17.2%	6 11.5%	13 15.5%
普通	6 35.3%	12 80.0%	18 56.3%	11 47.8%	14 48.3%	25 48.1%	43 51.2%
一部だけ	4 23.5%	0 0.0%	4 12.5%	4 17.4%	4 13.8%	8 15.4%	12 14.3%
ほとんどもっていない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 21.7%	3 10.3%	8 15.4%	8 9.5%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	17 100%	15 100%	32 100%	23 100%	29 100%	52 100%	84 100%

「一部だけ」「ほとんどもっていない」ともに多かった。

特に通院中の手帳所持者は通院中の非所持者に比べ明らかに不活発であった。

2. 地域での社会生活

同じく介護予防を支える「自助・共助」、特に「コミュニティの活性化」にとって重要な、地域での社会生活の状況を非要介護認定者に

ついて調べた。うち身体障害者手帳非所持者については表8-1、身障手帳所持者については表8-2に示す。

身障手帳非所持者では表8-1に示すように、「とても活発に参加している」は通院なし群では前期15.6%、後期5.3%に対し、通院（地域中核病院以外）8.2%、3.3%通院（地域中核病院）12.7%、9.7%と、前期では通院なし、後期では通院（地域中核病院）が最も

表8-1(1) 地域での社会生活の状況 - 非要介護認定者：身障手帳非所持者 -

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
とても活発	32 15.2%	37 16.0%	69 15.6%	8 6.0%	9 4.8%	17 5.3%	86 11.3%	17 8.4%	25 8.1%	42 8.2%	14 5.2%	8 2.0%	22 3.3%	64 5.4%
活発	24 11.4%	20 8.6%	44 10.0%	8 6.0%	10 5.4%	18 5.6%	62 8.1%	21 10.3%	32 10.4%	53 10.4%	13 4.9%	21 5.2%	34 5.0%	87 7.3%
普通に	110 52.4%	122 52.6%	232 52.5%	81 60.9%	78 41.7%	159 49.7%	391 51.3%	125 61.6%	159 51.8%	284 55.7%	122 45.7%	148 36.3%	270 40.0%	554 46.8%
一部だけ	24 11.4%	27 11.6%	51 11.5%	17 12.8%	44 23.5%	61 19.1%	112 14.7%	20 9.9%	52 16.9%	72 14.1%	55 20.6%	97 23.8%	152 22.5%	224 18.9%
ほとんど参加していない	18 8.6%	19 8.2%	37 8.4%	15 11.3%	36 19.3%	51 15.9%	88 11.6%	20 9.9%	36 11.7%	56 11.0%	57 21.4%	118 28.9%	175 25.9%	231 19.5%
回答なし	2 1.0%	7 3.0%	9 2.0%	4 3.0%	10 5.4%	14 4.4%	23 3.0%	0 0.0%	3 1.0%	3 0.6%	6 2.3%	16 3.9%	22 3.3%	25 2.1%
計	210 100%	232 100%	442 100%	133 100%	187 100%	320 100%	762 100%	203 100%	307 100%	510 100%	267 100%	408 100%	675 100%	1185 100%

表8-1(2) 地域での社会生活の状況(続) - 非要介護認定者：身障手帳非所持者 -

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
とても活発	22 16.2%	19 10.1%	41 12.7%	19 11.2%	23 8.7%	42 9.7%	83 11.0%
活発	22 16.2%	32 17.0%	54 16.7%	20 11.8%	23 8.7%	43 10.0%	97 12.8%
普通に	62 45.6%	80 42.6%	142 43.8%	59 34.9%	84 31.9%	143 33.1%	285 37.7%
一部だけ	16 11.8%	34 18.1%	50 15.4%	25 14.8%	34 12.9%	59 13.7%	109 14.4%
ほとんど参加していない	12 8.8%	21 11.2%	33 10.2%	46 27.2%	95 36.1%	141 32.6%	174 23.0%
回答なし	2 1.5%	2 1.1%	4 1.2%	0 0.0%	4 1.5%	4 0.9%	8 1.1%
計	136 100%	188 100%	324 100%	169 100%	263 100%	432 100%	756 100%

多かった。しかし「ほとんど参加していない」では通院なし11.6%に対し、19.5%、23.0%、「一部だけ」では14.7%に対し、18.9%、14.4%のように、通院ありでは通院なしより多く、不活発である。

男女差でみると通院なし後期高齢者ではほぼ同様であったが、他では男性のほうが活発

といえた。

次に身障手帳所持者では通院なし前期で「とても活発に参加している」は多いが、「ほとんど参加していない」も多い。その他の群では、手帳所持者は非所持者に比べて不活発であった。特に通院中の手帳所持者は通院中の非所持者に比べ不活発であった。

表8-2(1) 地域での社会生活の状況 — 非要介護認定者：身障手帳所持者 —

	通院なし							通院あり(地域中核病院以外)						
	前期			後期			総計	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	計	男性	女性	計	
とても活発	5 45.5%	1 14.3%	6 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 15.4%	2 6.9%	0 0.0%	2 3.2%	2 4.8%	1 1.5%	3 2.7%	5 2.9%
活発	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.9%	2 3.2%	0 0.0%	4 5.9%	4 3.6%	6 3.5%
普通に	4 36.4%	3 42.9%	7 38.9%	7 53.9%	1 12.5%	8 38.1%	15 38.5%	10 34.5%	15 44.1%	25 39.7%	14 33.3%	18 26.5%	32 29.1%	57 33.0%
一部だけ	0 0.0%	2 28.6%	2 11.1%	1 7.7%	1 12.5%	2 9.5%	4 10.3%	5 17.2%	7 20.6%	12 19.1%	6 14.3%	16 23.5%	22 20.0%	34 19.7%
ほとんど参加していない	2 18.2%	1 14.3%	3 16.7%	4 30.8%	6 75.0%	10 47.6%	13 33.3%	11 37.9%	9 26.5%	20 31.8%	18 42.9%	26 38.2%	44 40.0%	64 37.0%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	1 4.8%	1 2.6%	1 3.5%	1 2.9%	2 3.2%	2 4.8%	3 4.4%	5 4.6%	7 4.1%
計	11 100%	7 100%	18 100%	13 100%	8 100%	21 100%	39 100%	29 100%	34 100%	63 100%	42 100%	68 100%	110 100%	173 100%

表8-2(2) 地域での社会生活の状況(続) — 非要介護認定者：身障手帳所持者 —

	通院あり(地域中核病院)						
	前期			後期			総計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
とても活発	2 11.8%	0 0.0%	2 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.4%
活発	1 5.9%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	2 6.9%	2 3.8%	3 3.6%
普通に	6 35.3%	7 46.7%	13 40.6%	5 21.7%	9 31.0%	14 26.9%	27 32.1%
一部だけ	3 17.6%	1 6.7%	4 12.5%	5 21.7%	3 10.3%	8 15.4%	12 14.3%
ほとんど参加していない	5 29.4%	7 46.7%	12 37.5%	13 56.5%	15 51.7%	28 53.8%	40 47.6%
回答なし	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	17 100%	15 100%	32 100%	23 100%	29 100%	52 100%	84 100%

<第2部>自治体病院における介護予防システム

第1部の調査結果をもとにパイロットスタディとしての自治体中心の介護予防システムについて、病院長をはじめとする中心的な病院スタッフと本主任研究者とが討論を重ね、次のような暫定的な結論を得た。

1) 病院介護予防推進システム

院長の総括責任の下に、①プロジェクトリーダーとして内科医、②実質的な担当責任者として看護部の責任者、③介護保険との連携の意味でソーシャルワーカー兼介護支援専門員をおく。

なお、この場合、ソーシャルワーカー兼介護支援専門員を選んだ理由は、必ずしも職種によるものではなく、個人の能力と自治体の関係者との従来からの関係についての判断によるものであり、他病院において一般化する際には個別の、個人的要素も重視した検討が必要である。

2) 担当職種と中心となる担当者

主たる担当職種は看護師とし、その中で中心となる担当者を決めることとした。

(1) 担当職種選択の理由

担当職種を看護師とした理由は、次の通りであった。

- ①通常「健康状態」(疾患・外傷、等)への対応が中心である医療の中で、健康状態への対応(治療・管理)と同時に、生活機能モデルの中に「健康状態」を位置づけつつ、患者の生活機能をみていくことが担当職種には要求される。この点看護師は疾患についての知識もあり、疾患面への働きかけも行う職種として適切である。

- ②看護自体がADL等の生活行為への働きかけを本来の業務の一環として行っている。

なお、他職種の可能性については次のような点が確認された。

疾患についての専門知識がない職種では、疾患管理、生活機能向上の両面の関連性をつけることはできない。

(2) 特定の担当者を決めた理由

介護職の中で担当者となる特定の看護師を決めた理由は、以下の通りであった。

- ①看護職の通常業務として位置づけてしまうと、どうしても疾患管理等、時間に迫られて行う緊急的な業務が多いため、それらを優先してしまう可能性が高い。
- ②最近では、特定の疾患について等、看護の専門性を求める傾向も強く、生活機能を中心としてみることを一つの専門とすることが看護師自体にも受け入れられやすい。

(3) 具体的なすすめ方

具体的な働きかけの内容としては、「生活機能チェック表」(図2)を外来患者、入院患者の全員に初診時、入院時及び定期的に用いて生活機能を把握する。

特に初診および入院時は、後方視的に発症前及び最近1年間の経過を、疾病と同時に生活機能の側面についても聴取する。

D. 総括的考察

各項目についてその都度考察を加えてきたので、ここでは総括的な考察に限る。

1. 高齢者生活機能調査結果の考察

第1部の調査結果の重要な点は以下の通り

である。

1) 通常は健康であり自立していると考えられる非要介護認定者・身体障害者手帳非所持者の在宅高齢者において、意外ほど多くの生活機能低下が、歩行（屋外・屋内）、身の回り行為、家事などの「活動」の「質」、生活の活発さ、外出頻度などの「活動」の「量」、また対人関係、社会生活などの「参加」の状況についてみられた。

2) これは特に病院に通院している者に著明であった。すなわち介護予防の観点からすれば病院は生活機能低下者を早期に発見する最適の場であることが明らかになった。

3) その際年齢が高くなるほど生活機能低下者が多くなること、概して男性よりの女性に低下者が多いこと等、特にハイリスク群の特徴が明らかになった。

4) 要介護認定者においては当然のことながら、非要介護認定者よりは生活機能低下者が多く、低下の程度も大きい。しかし外来通院の影響については個々の項目によって、必ずしも一概に通院者に生活機能低下者が多いとはいえなかった。しかし現実の問題としては、要介護認定者はすでに介護予防および介護保険サービスの対象者となっており、ケアマネジメントの対象として病院以外の場で対応がなされている。それに加えて医療の場でも介護予防的対応をすることはもちろん重要であるが、非要介護認定者の場合とはその重要性におのずから大きな差があると考えられる。

5) 以上から今回の調査により、医療機関が中心となって行う介護予防プログラム・システムの確立のために必要な基礎的情報が確認された。

2. 介護予防への医療の積極的関与

介護予防は現在行政対応が中心と考えられがちである。しかし本主任研究者は医療機関の積極的関与がその成否を決すると考えている。これは生活機能低下の「急性期」（生活機能が比較的急激に低下する時期、図1参照）における対応だけでなく、「慢性期」（生活機能がゆっくりと低下、あるいは維持される時期、図1参照）において重要である。特に何らかの病気をきっかけにして「過度の安静」によって「活動」の量が低下し、生活不活発病を起し、生活機能が低下することが多いため、早期発見・早期対応と、治療にあたっての生活の活発化にむけての「活動度」（病気があっても必要な活動の量・質を具体的に示す）などの、生活機能に関する指導が重要である。また治療自体でも、生活機能向上を目標とする治療が行われることが望ましい。

3. 生活不活発病の予防

生活不活発病の予防には一次予防、すなわち生活不活発病の発生そのものを予防することと、二次予防すなわち生活不活発病の発生を早期に発見し、早期に適切な対応を行って解決することとがある。また二次予防には半ば比喩的ではあるが「急性期の対応」と「慢性期の対応」とを分けることができる。

1) 一次予防

これは「生活の不活発」という生活不活発病の根本的な原因となる状態を起こさないことで、生活不活発病を予防することである。

特に疾患（認知症を含む）を持ち、通院する人々は生活機能低下のリスクが大きいことが、今回の実態調査で明らかとなった。

これは図1では左端の狭い範囲に示してあるが、実は長い期間である。